

中国・四国地域の大豆をめぐる現状



令和5年3月

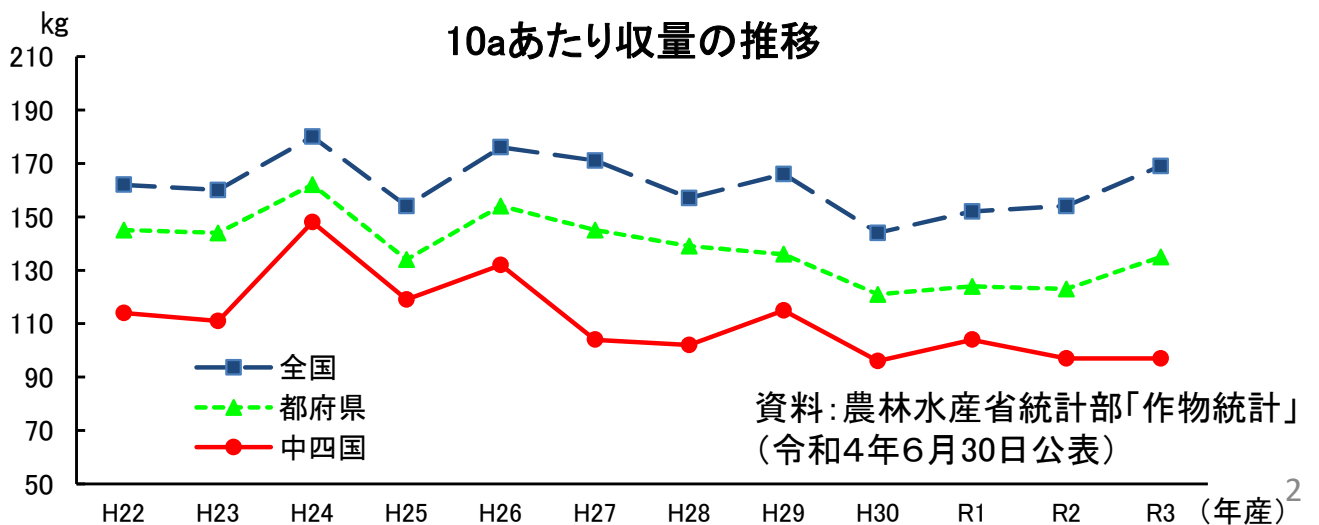
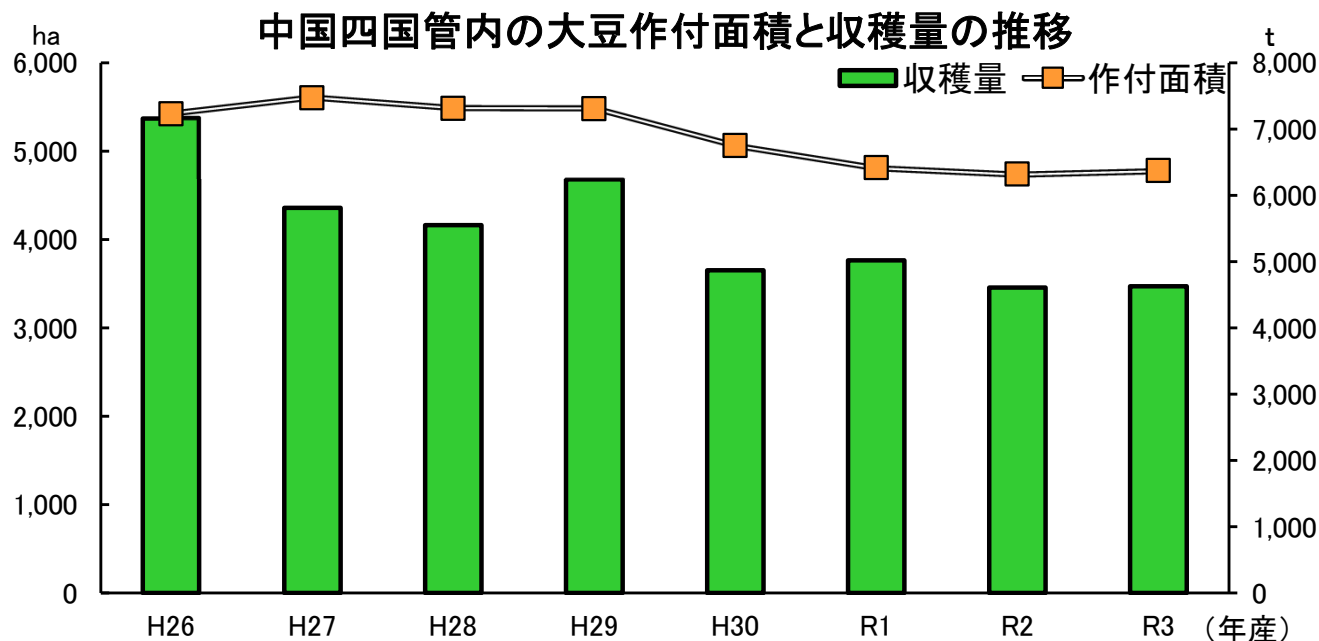
中国四国農政局 生産部 生産振興課

1 生産状況

- 大豆作付面積は、4,780haで、令和3年産の全国に占める割合は約3%となっている。地域別には中国地域が4,280haで中国・四国地域の約9割を占める。県別には、岡山が1,550haで、中国・四国地域の作付面積の3分の1を占めている。
- 令和3年産の中国・四国地域の単収は97kgで、全国平均(169kg)を下回っており、単収向上が課題である。

令和3年産(大豆)

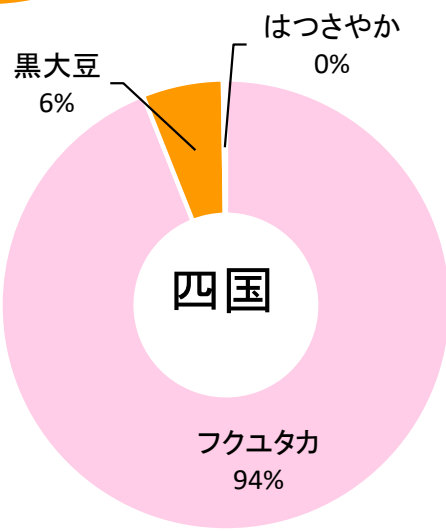
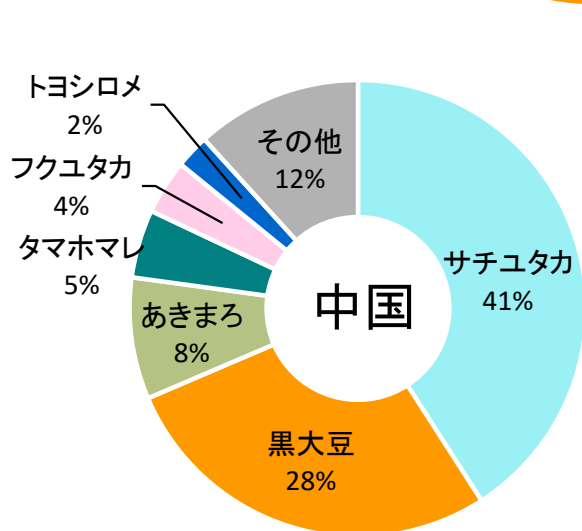
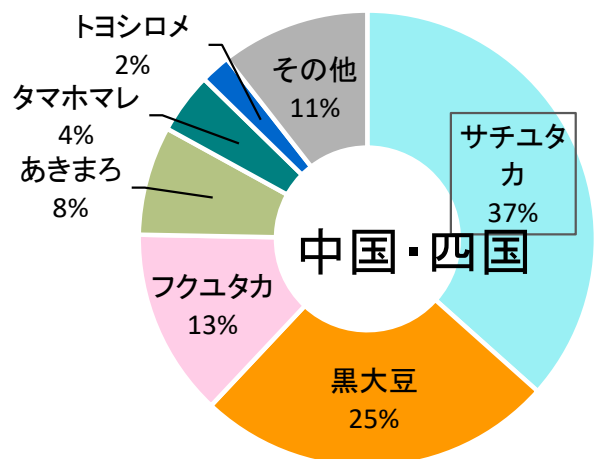
県名	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)
鳥取県	667	110	734
島根県	783	103	806
岡山県	1,550	82	1,270
広島県	408	67	273
山口県	870	107	931
徳島県	15	93	14
香川県	67	72	48
愛媛県	346	148	512
高知県	73	62	45
中国四国計	4,780	97	4,630
全国計	146,200	169	246,500



2 品種と品質

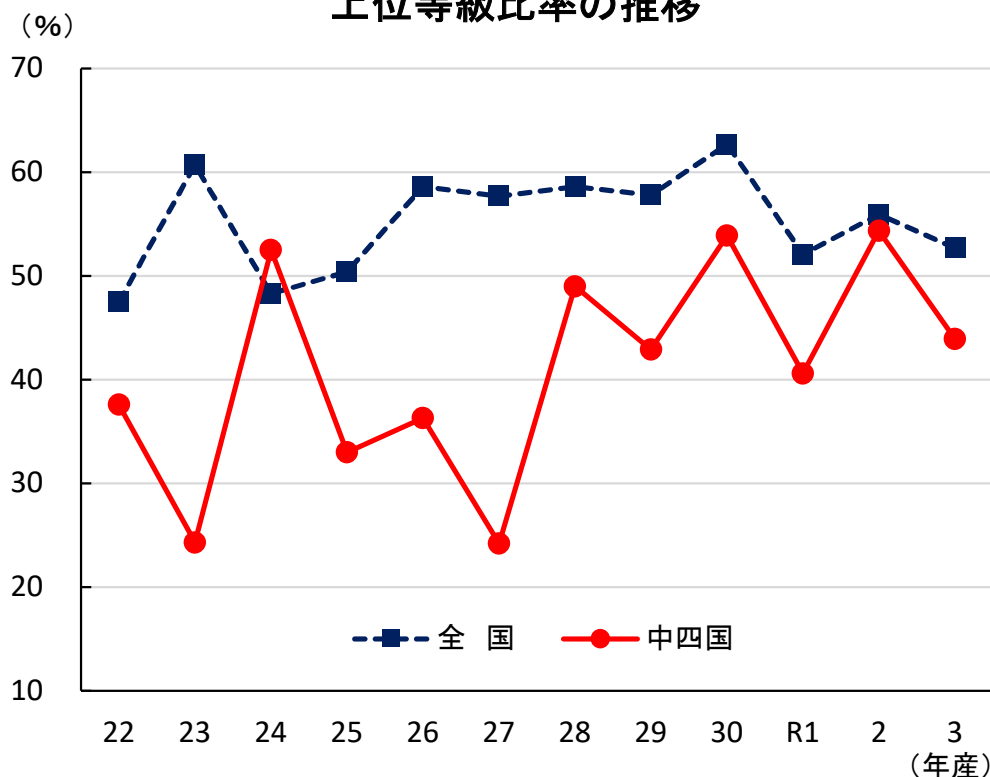
- ・白大豆の主な品種は、中国地域は「サチユタカ」、四国地域は「フクユタカ」と品種は2分されているが、一部の県・地域では、新品種の導入等、生産品種の少量多様化も見られる。サチユタカとフクユタカの主な用途は豆腐。
- ・農産物検査の等級割合をみると、上位等級比率(1等及び2等)は例年、全国を下回っている。

令和3年産大豆作付品種状況



資料：農林水産省農産局穀物課「大豆に関する資料」

上位等級比率の推移



資料：農林水産省農産局穀物課「農産物検査結果」

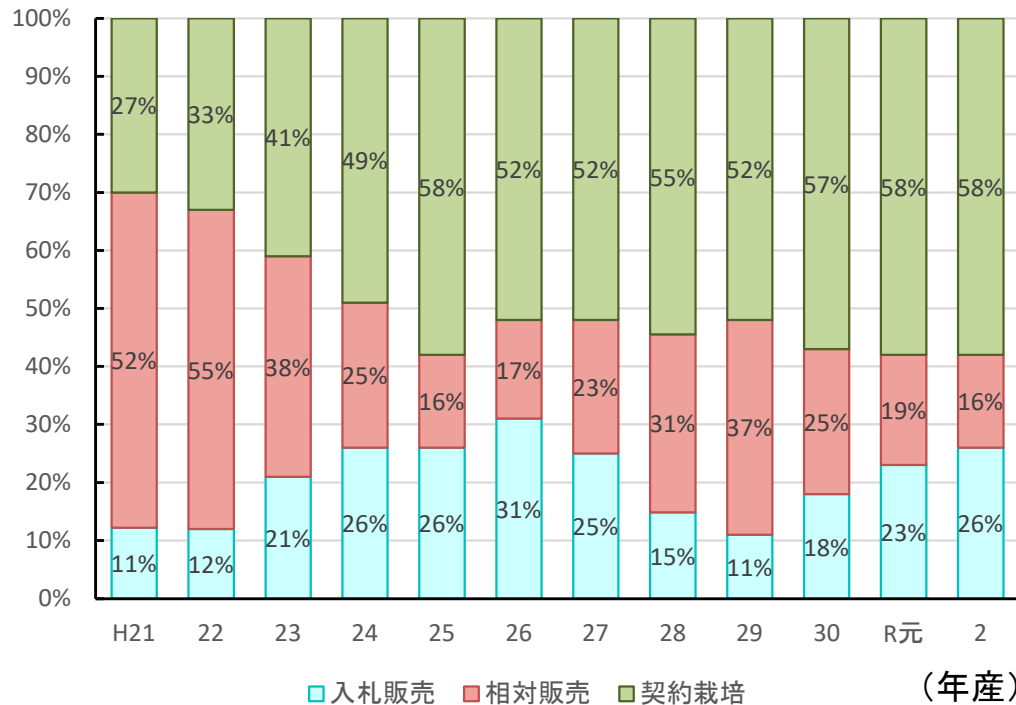
中国四国の大豆/上位5品種 計4,775ha (作付シェア78.3%)

1. サチユタカ (1,748ha 39%) 用途: 豆腐
2. 黒大豆 (1,211ha 25%) 用途: 煮豆、枝豆
3. フクユタカ (636ha 14%) 用途: 豆腐
4. あきまる (368ha 8%) 用途: 味噌、豆腐
5. タマホマレ (206ha 4%) 用途: 味噌、豆腐

3 入札取引と価格動向

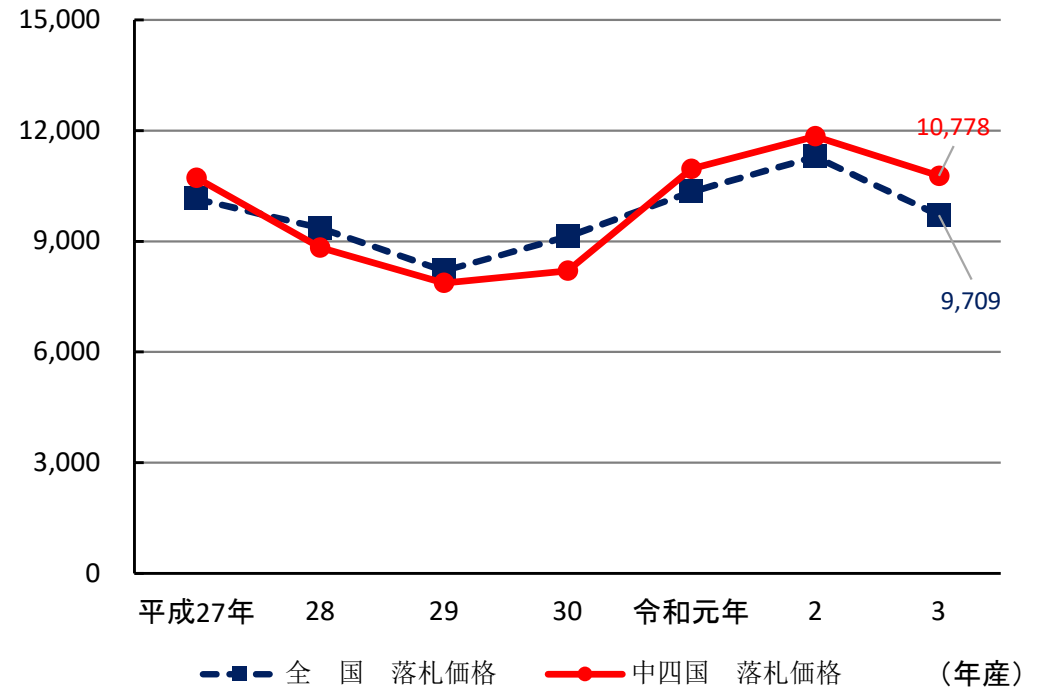
- ・国産大豆の販売は大きく分けて入札販売、相対販売、契約栽培の3つがあり、近年は契約栽培の割合が増えてきている。
- ・近年は全国的に取引価格が上昇傾向にあつたが、R3年産は低下した。

国産大豆の形態別販売数量



入札取引における落札価格

(円/60kg)



<入札取引市場について>

- 公正・透明な価格形成の場を設けることにより、入札取引以外の契約取引や相対取引に指標価格を提供する役割。
- H11年産までは売り手自ら開設していたが、透明性・公平性確保の観点から、H12年産より第三者機関である(公財)日本特産農産物協会が開設。
- 売り手は全農と全集連の2者。買い手は170者(H29年産)。
- 12月から概ね翌年9月まで月1~2回(H30年産は7月までの計8回)実施。
- H30年度から播種前入札取引が新たに導入(H29年度に試験実施)。

資料：(財)日本特産農産物協会における入札結果

- ・実需者のニーズに対応し、加工適性に優れた品種が育成されており、管内では一部の地域で導入。
- ・農研機構が開発した「大豆300A技術」は中国・四国地域では1割ほどで導入。
- ・近年、全国的に問題となっている帰化雑草による被害が管内でも次第に増えてきており、新たな除草法の開発が必要となっている。

○品種:あきまろ

- ・(国研)西日本農業研究センターが育成し、平成25年3月に品種登録。
- ・色が明るく色調が良好で、白味噌や淡色味噌への加工適性が高い。
- ・最下着莢位置が高く、収穫ロスが少ない。
- ・晩播栽培(7月播種)でも多収となるため、梅雨の長雨で播種が遅れた場合でも一定量の収量が期待できる。



あきまろ フクユタカ

○耕うん同時畝立て播種(大豆300A技術)

- ・重粘土壌やほ場の排水不良、梅雨時期にかけての湿害を軽減。
- ・鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛で導入されている。



○帰化雑草



マメアサガオ



マルバルコウ



アオゲイトウ



イヌホオズキ

5 大豆生産の優良事例

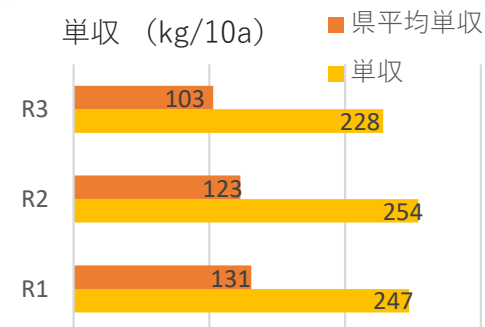
【農林水産大臣賞】第50回（令和3年度）全国豆類経営改善共励会大豆集団の部

水稻と大豆のブロックローテーションと新技術の導入で県内トップクラスの単収 農事組合法人 ふくどみ 島根県出雲市

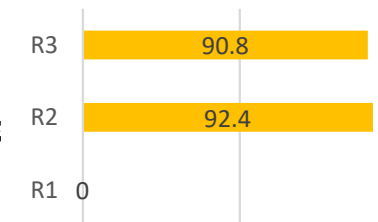


構成農家 17戸
オペレーター 1人
基幹作物 大豆13.6ha（品種名：タマホマレ、サチユタカA1号）、水稻17.6ha、麦類15.6ha（R3）
特徴 離農者の農地集積を進め、大豆の作付けは10年前の約2倍に増加。水稻・麦・大豆の2年3作体系のブロックローテーションに取り組み、地域にいち早く深層施肥技術やドローンを導入。

大豆生産状況



上位等級比率 (%)



栽培上の特色

- 省力化・高品質化 | 約13haの播種・中耕を約3日で行うなど天候を考慮して適期作業に努めている。収穫後の乾燥・調製を全量JAへ委託し省力化、高品質化を図っている。
- 新技術の導入 | 弾丸暗渠施工時に併せて石灰窒素の深層施肥を行う機械を工夫し、開花期以降の養分供給を可能にしている。中耕除草機を導入し、3回の作業で除草・土寄せを実施。ドローンを導入し植物活性剤等の散布を実施。

経営上の特色

- 水稻・大麦・大豆の2年3作ブロックローテーションにより耕地利用率が144%。
- 費用対効果を意識し、利用資材の検討、無駄の少ない種子量決定などに努めている。
- 近隣集落営農法人の防除や収穫を受託し機械の有効利用を図るほか、栽培講習会や視察対応により他生産者の意欲向上に寄与。

販売・消費拡大への取組

- サチユタカ、タマホマレを主に栽培し、そのほとんどが契約栽培で実需者から好評。
- 女性部が自家用の味噌加工を毎年度行っている。



キウホーの中耕除草機



弾丸暗渠&深層施肥